

# 印刷女子通信

2026 5月号

印刷女子 

刷って、語って、つながって。

仲間と未来をつなぐ情報誌：印刷女子通信

印刷女子通信は、印刷業界で働く女性たちが、経験や知見を共有しながら、学び合い、支え合うために立ち上げたメールマガジンです。

編集・発行元のGirls Who Print Japanは、仲間とのつながりが、個人の成長だけでなく、業界全体の前進にもつながると考えています。日々の仕事で得た気づきや課題、挑戦の先にある達成感を共有することで、新たな一歩を踏み出す力が生まれると信じています。

本誌では、活動レポート、キャリア支援、国内外の印刷トレンドなど、幅広い情報をお届けします。

読者の皆さまが自身のキャリアや業界の未来を前向きに考えるきっかけとなれば幸いです。！

# 目次

1: ダイジェスト版

2: 印刷女子 交流ツアー in JP2026・印刷DX展 in 大阪

3: 交流ツアー ふりかえり（事務局より）

4: GWP カナダ とのミーティング

5: GWP インド とのミーティング

6: 今後のイベントについて

7: 印刷女子 交流ツアー 各社へのご訪問

# (1) ダイジェスト版



2026年5月、Girls Who Print Japanは大阪で開催された「JP2026・印刷DX展」にて、「印刷女子 交流ツアー」を実施しました。特別トークセッションへの参加後、14の企業・団体の展示ブースを訪問し、デジタル印刷、自動化、省力化、環境対応、ワークフロー改善など、印刷業界の今後につながる多様な取り組みを学びました。



参加者からは、「企業との交流が深まった」「GWPJの存在感を印象づける機会になった」「女性が集まることで新しいインパクトが生まれた」といった声が寄せられました。展示会の中で印刷業界で働く女性たちが実際に集まり、語り合い、つながることで、活動テーマである「刷って、語って、つながって。」を体現する機会となりました。



Girls Who Print カナダ & インドとのオンライン交流も行い、今後の国際連携やアジア地域での活動拡大について意見交換を行いました。今後は、7月の定期勉強会・交流会、8月の「女子中高生夏の学校2026」への出展、新しいメルマガ配信システムの導入を予定しています。



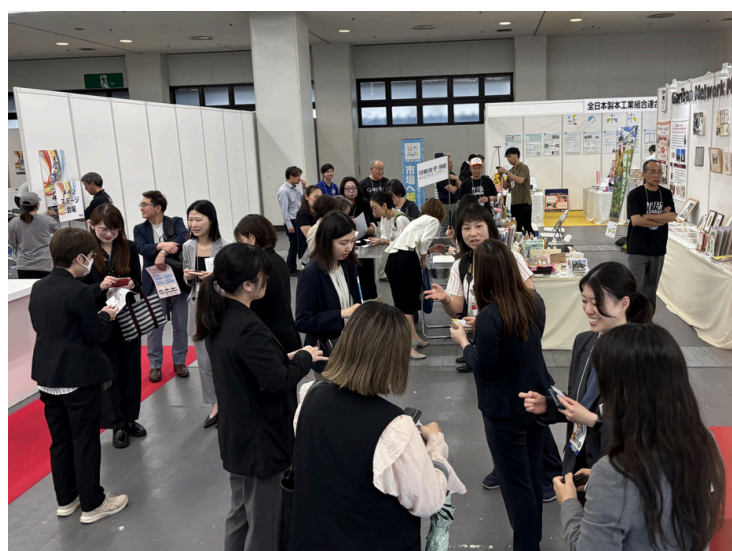
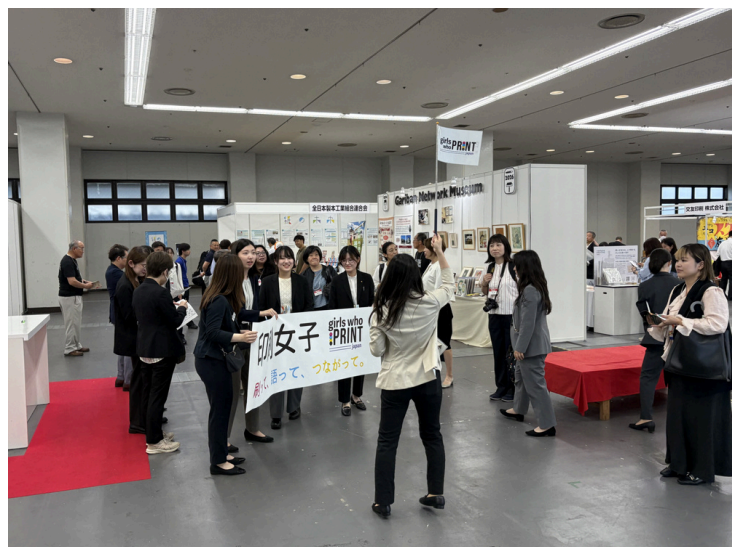
## (2) 印刷女子 交流ツアー



5.20日(水)～22日(金)に大阪で開催された「JP2026・印刷DX展」にて、「印刷女子 交流ツアー」を実施しました。

まず、印刷女子×JP2026 特別トークセッションに参加し、その後、名刺交換をおこなって交流ツアーを開始しました。

展示会の中で“印刷女子が実際に集まる”貴重な機会となりました。

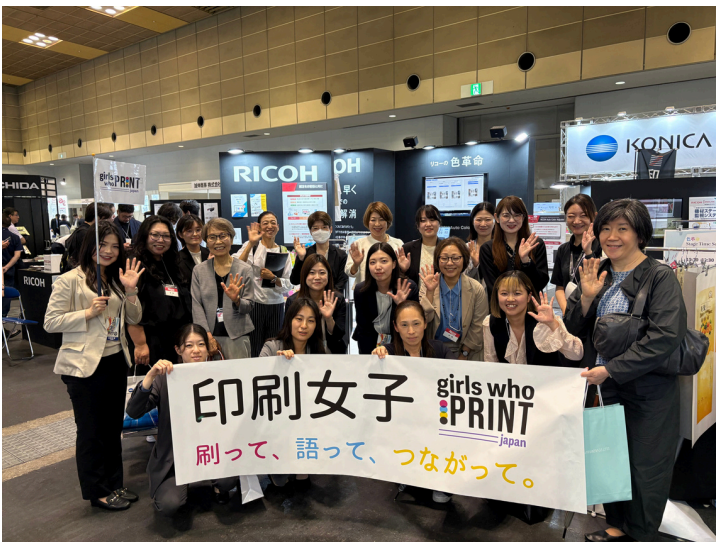


# 14の企業/団体様の展示ブースにご訪問

各社 3-5分程度のブース案内/説明をお聞きし、印刷サンプルを見せて頂いたり、質疑応答などにご対応いただきました。

ご参加して下さった皆様、関わって下さった企業の方々、本当にありがとうございました。

2時間にわたるツアー(途中で休憩あり)となりました。これを機会に交流が広がると嬉しいです。





# (3) 交流ツアーのふりかえり

## Q. 印刷女子 交流ツアー in JP展での実施はいかがでしたか？

### ■ 青木 理恵さん(株式会社SCREENグラフィックソリューションズ)

印刷女子の旗振り役という重要な役割を担当させていただき、大変嬉しく、光栄です。今回の交流ツアーでは、写真撮影に加え、各ブースのご紹介も盛り込んだことで、より内容の濃いツアーになったと感じています。単に交流を楽しむだけでなく、各ブースへの理解を深めていただける、充実した時間になったのではないかと思います。

また、肌感として、pageのときよりもGirls Who Printの認知が広がっていると感じており、pageでの発信の影響力の大きさを実感しました。さらに、今回初めて交流ツアーにご参加いただいた方もいらっしゃる、国内においても印刷女子の輪が着実に広がってきていると思います。本ツアーを通じて新たな出会いも生まれ、これこそが「語って、つながって」だと改めて実感するとともに、Girls Who Printの活動の魅力と意義を再認識する機会となりました。展示会にとどまらず、今後の交流会などを通じて、このつながりを継続していければと考えています。

### ■ 関野 里美さん (セントラル印刷株式会社)

印刷女子交流ツアー in JP展では、事前に各社ブース訪問を予約していただいていたことで、とてもスムーズに見学できました。各社の皆さまにも丁寧にご対応いただき、大変お世話になりました。

各社ブースでは、それぞれの特徴や取り組みをわかりやすくご説明いただき、限られた時間の中でも多くの学びがありました。普段なかなか訪問できない企業様のお話を直接聞いたことは、貴重な経験でした。また、「印刷女子通信」で各社の取り組みをご紹介することで、企業様との交流もより深まったと感じています。

今回、印刷女子が大勢で会場を回ったことで、GWPJの存在を印象づけることができ、企業様との写真撮影を通じて自然な交流にもつながりました。さらに、女性3名による初のトークセッションや、業界4団体の会長の皆さまへ活動をアピールする機会もあり、今後IGASやpageなどでの展開の可能性も感じられる、大変意義深い機会となりました。

### ■ 築山 万里子さん (アサヒ精版株式会社)

私自身、普段は「女性カテゴリー」を意識して動いているわけではありませんが、印刷業界において女性の感性を活かせる場はもっとあるはずだと常々感じていました。ツアーは正直きっかけがなければ参加していなかったかもしれませんが、とても有意義でした。

今回の参加で強く感じたのは、各ブースが「GWPJ」の存在自体に驚き、注目していたことです。男性比率が断然高い印刷業界において、「女性」が多く集まること自体が新鮮なインパクトを与えるのだと実感し、そこに女性ならではのパワーや結束力を感じました。また、メーカー女子が多いことでユーザーサイドとの距離が縮まり、より対等で密接な関係性を築きやすいのではないかと感じました。GWPの活動はまだまだ未知ですが、これからは海外との交流も楽しみですし、その垣根も超えて、グローバルな印刷女子の活動が広がっていくことを期待しています。

# (4) GWP カナダ交流



2026. 5.26に、Girls Who Print カナダの Joanneさんとオンラインmtgをおこないました。

## Girls Who Print Canadaについて分かったこと

- ボードメンバーが急速に拡大。教育、HR、デザイン、製造、テクノロジーなど、多様な分野から参加している。
- 月次で「Community Huddles」というオンライン企画を実施している。理事メンバーがテーマに沿って質問に答える形式で、継続的な交流を作っている。
- Pack GlobalやIPMAなど、他団体との連携を進めている。
- IPMAとは、会員向けの相互メリットも検討している。
- スポンサー獲得に力を入れており、Konica Minolta Canada、Ultimate Tech、TI Groupなどが候補・関係先として挙がっている。
- 7月に初のリアルイベントを予定している。
- スポンサー向けパッケージを作成中で、イベント露出、ウェビナーでの認知、SNS発信、バナー掲出などをメリットとして整理している。

## 将来に向けて議論されたこと

- 日本とカナダの活動内容を継続的に共有する。
- カナダのボード会議後、Joanneが今後の計画やアイデアをYusukeに共有する。
- 日本側も、今後の活動予定や成果をJoanneに共有する。
- 将来的に、日本・カナダ合同のオンラインイベントを開催する可能性がある。
- カナダの「Sheila the Print Nerd」プロジェクトを日本でも参考にできる可能性がある。
- JoanneがYusukeにSheilaを紹介し、YouTubeチャンネルも共有する。
- カナダのスポンサー資料を日本側に共有し、日本支部の資金調達やスポンサー設計の参考にする。
- 各国の文化や企業事情に合わせて、イベント参加方法やスポンサー施策を調整する必要がある。



# (5) GWP インド交流



2026. 5.xxに、Girls Who Print IndiaのNidhiさんとオンラインmtgをおこないました。

## Girls Who Print Indiaについて分かったこと

- Girls Who Print Indiaは、女性同士の国際的なネットワーク形成や情報共有を重視している。
- インド支部では、起業家、技術者、研究者、サプライヤーなど、多様な専門分野の女性が参加している。
- 若手人材不足はインドでも課題となっており、大学と企業をつなぐ活動を進めている。
- Madhuraの大学では、企業を招いて学生向けに業界説明やキャリア紹介を行っている。
- 印刷業界を魅力的に見せるため、Podcastやトーク番組を活用した情報発信にも力を入れている。
- Nidhiは4年間Podcastを運営しており、AI、自動化、女性起業家などをテーマに発信している。
- 日本支部との交流を通じ、アジア地域でのGirls Who Printの存在感拡大を目指している。

## 将来に向けて議論されたこと

- 日本・インドを中心に、アジア各国を巻き込んだオンラインイベントやウェビナーを企画する。
- Podcast形式でGirls Who Printの活動をアジア全体へ発信する構想が議論された。
- 日本側メンバーが、インドの大学イベント向けに録画またはライブセッションを提供する可能性がある。
- 日本とインド双方の展示会・イベントへの相互参加や訪問を検討している。
- 日本側は、将来的にインドの印刷イベント「Print Pack」への参加可能性を調査する。
- Nidhiは、日本の7月イベントへオンライン参加し、短い挨拶を行う予定。
- アジア地域全体でGirls Who Printの認知向上を目指し、各国支部間の連携を強化していく方向性が共有された。



# (6) 今後について

## (i) 7/10(金) 定期勉強会/交流会を開催予定

- ・午前 = 印刷会社様を訪問(予定:東京都 茗荷谷)
- ・午後 = 印刷機メーカーのショールームで勉強会/交流会

もう少しお時間ください。  
次回の印刷女子通信でご連絡させていただきます。

## (ii) 女子中高生夏の学校2026 ポスターセッション

- ・8月上旬のポスターセッションに出展を予定しています。
- ・中学生・高校生の女性たちに、印刷業界で働く魅力をつたえる展示ができればと思います。
- ・詳細は、また次号のメルマガでお伝えさせて頂きたいと思います。

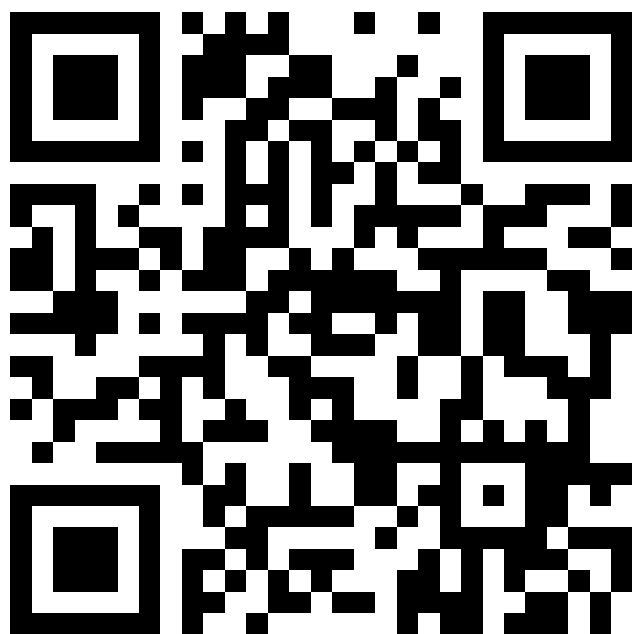
## (iii) 印刷女子/メルマガ配信システムの導入


- ・新しくメルマガ配信システムを導入いたします。
- ・現在 BCC配信でお届けしている方々は、一旦、新システムに自動登録させていただきます。
- ・引き続き、関わっていただけますと幸いです。
- ・以後は、配信されたメルマガの中のURLから、ワンクリックで配信停止ができます。

# (7) お問い合わせはこちら


印刷女子通信(メルマガ)へのご登録はこちら

→ Googleで検索「印刷女子.style」 or 下のQRコードから



 080-4799-2960 (Keypoint /清水祐介)

 yusuke.shimizu@keypointintelligence.com

 <http://印刷女子.style/>



# コニカミノルタジャパン株式会社



コニカミノルタジャパンでは、「THE POWER OF DIGITAL TRANSFER～最適生産が、新しい競争力になる」をテーマにした展示が行われていました。「受注から出荷までのプロセスを一気通貫で自動化する“デジタルトランスファー”の実現」を提案されているようです。

まず、印刷工程そのものだけでなく、受発注から加工、梱包、発送までを含めたワークフロー全体の自動化についてご紹介がありました。

AccurioPress C5080とオプションであるTU-510eを活用したインライン断裁、自動梱包システムによるラベリング～配送先ごとの仕分けなどのご説明もありました。人手不足への対応や省力化を目的とした提案です。実際のユーザー事例をもとに、受発注から納品までの各工程をどのように連携させるかについてご紹介いただきました。

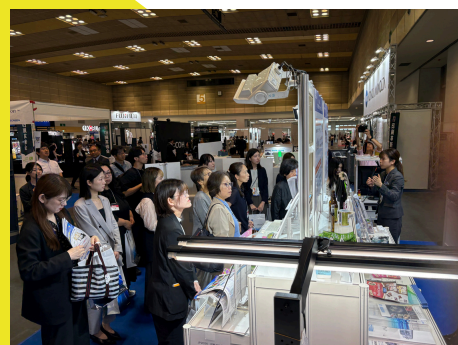
[MK1.1]また、ラベル印刷機やB2サイズ対応UVインクジェット機、デジタル加飾機など、産業印刷向けの機器やサンプル展示もご紹介いただきました。

ラベル印刷機は、オンデマンド機に近い操作性を採用しており、従来よりも短時間で操作習得が可能になっていることや、小ロット・多品種対応ができるとのこと。デジタル加飾機はパッケージ印刷や同人誌関連などでの活用事例も紹介され、参加者は実際のサンプルを見ながら説明を聞いていました。

さらに、B2サイズ対応UVインクジェット印刷機は、広い色域によるRGB印刷や、オフセット印刷からの置き換え事例についても紹介が行われました。



# SCREEN GP ジャパン社



SCREEN GP ジャパンでは、「両利きの手でビジネスを進化 ～営業力と生産力を極める～」を展示テーマとして掲げ、“両利き経営”をキーワードに、新規提案力と生産効率向上の両方を支援するソリューション提案が行われていました。

デジタルラベル印刷機とラベル後加工機の実機展示に加え、商業印刷や帳票、パッケージ、シールラベル関連のデジタル印刷機によるサンプル展示は、具体的な活用イメージが持ちやすく、用途の広がりを実感できる展示構成となっていました。また、新バージョンのバリアブルデータ作成ソフトウェアやインク削減ソリューションなどの最新トピックスもご説明いただきました。

展示ブースでは、協力企業による提案も行われており、アビッド・フレックス株式会社のパッケージ向けソリューション、株式会社シーズの印刷通販システム、シーティーシージャパン株式会社の連続帳票対応モノクロプリンター、株式会社ジーティービーの品質検査ソリューション、ジンバイ株式会社のAI-OCRなど、実務に幅広く活かせる内容の豊富さを感じました。

ツアー参加者は、実際の機器や出力サンプルを見ながら説明に耳を傾け、ブース展示に関心を寄せていました。

# リコー・ジャパン株式会社



リコー・ジャパンでは、「共創」と「色革命」をテーマにしていました。「ななめ上のご提案」を掲げ、印刷会社の新しい仕事づくりや、小さなDXによる業務改善提案を行う出展コンセプトです。

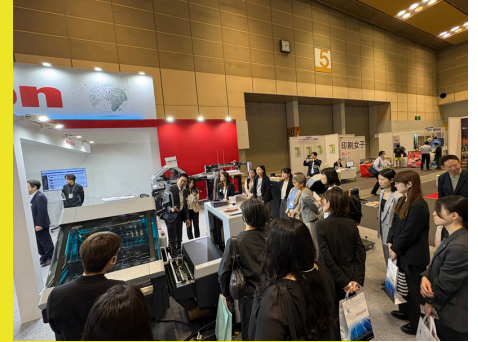
まず、顧客事例をもとにしたサンプル展示のご紹介がありました。ヴィッセル神戸の必勝祈願の事例などです。「共創」=「お客様と一緒に仕事を作っていく」という考え方のもと、さまざまな印刷サンプルが展示されていました。印刷物を通じて、新しいアイデアや活用方法を提案することを目的としているそうです。

ホワイトトナー搭載プリンターを活用したサンプルについてのご紹介がありました。白トナーで印刷した上から絵の具やインクを塗ることで絵柄が浮き出る仕組みとなっており、顧客アイデアから生まれた事例だそうです。

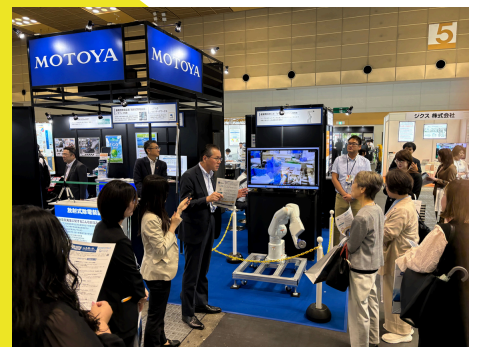
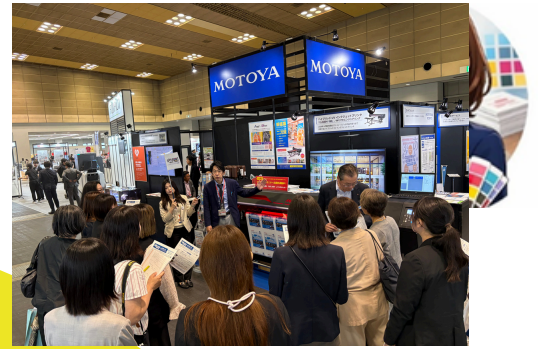
また、QRコードを利用してオリジナル缶バッジを制作できるシステムも紹介されました。来場者が写真を撮影し、AI加工などを行ったデータをプリンターへ送信し、その場で缶バッジ加工まで行う流れです。実際に「楽しみながら印刷を体験する」提案として、参加型の展示が行われていました。

最後に、「色革命」のコーナーでは、デジタル印刷における色変動への対応について紹介が行われました。測色データをもとにプロファイルを自動補正する仕組みについてご説明があり、デジタル印刷機の色安定化や、オフセット印刷からデジタル印刷への移行支援で活用されている事例が紹介されました。JP展の出展概要にも、「RICOH Auto Color Adjuster」を活用した色管理ソリューションが紹介されており、ICCプロファイル生成による色差補正や、色合わせ作業の効率化について提案されているようです。

# ホリゾン・ジャパン株式会社



原稿の確認中です。(後日アップデートいたします)



モトヤの展示ブースでは、印刷業界の課題解決につながる商材を紹介する展示が行われていました。印刷機器、資材、フォント、人材サービスなどを扱う総合印刷機材商社として、幅広いソリューションを紹介しています。

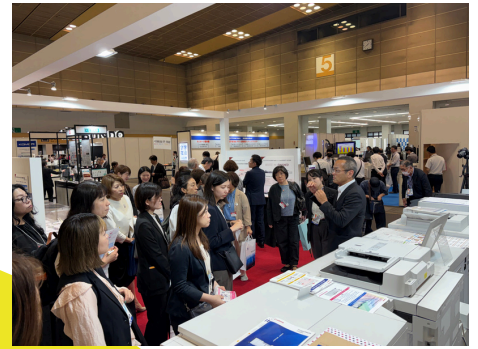
まず「こと売り」に力を入れている企業であるとの会社紹介がありました。印刷業界の「お困りごとを解決する商材・儲けて頂くことのご提案商材」を取りそろえているとのこと。

最初に、ミマキエンジニアリングのUVプリンターが紹介されました。この機械は、ロール紙とボードの両方に対応できること、最大5cm厚の素材にも印刷できます。畳、レジャーシート、ベニヤ、発泡パネル、段ボールなどへの印刷例が紹介されました。また、白インクを使うことで下地の色の影響を抑えられる、クリアインクで水滴のような艶表現や箔加工風の表現ができる、2.5D印刷による凹凸表現や点字印刷にも対応できるなどのご説明いただきました。

次に、印刷会社向の検査装置についてご説明をいただきました。印刷機に直接搭載し、チラシ、カタログ、パッケージなどの印刷後にカメラで確認し、OK・NGを判定する仕組みです。不良品の発生や廃棄を抑えるためのシステムです。

最後に、人手不足への対応として、ロボットアームを使った繰り返し作業の自動化・機械化についてご紹介がありました。人材確保が困難な時代となる中、賃金等人材にかかるコストは今後も上昇が続くと思われます。そのような状況の中で生産工場として生産性・価格競争力の維持向上の為には人の手で日々繰り返し行われている作業のロボットアームを活用しての自動化・機械化をご提案頂きました。

# キヤノンマーケティングジャパン株式会社



キヤノンマーケティングジャパンの展示ブースでは、トナー方式のオンデマンドプリンター「imagePRESS V1000」を中心に説明が行われました。「印刷の未来を創造する」をテーマに、自動化・省力化、安定品質に関するソリューションが紹介されていました。

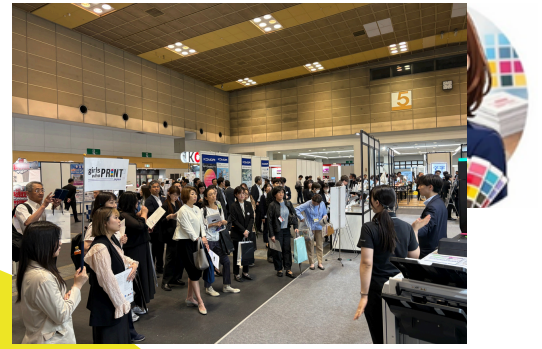
imagePRESS V1000の特徴として、安定した品質と生産性を維持するための機構をご紹介いただきました。給紙部では、エアーで紙をさばいて給紙する仕組みにより、紙への負担や重送リスクを抑えるそうです。また、万が一重送が起きた場合でも、エスケープトレイに排出して機械を止めずに印刷を継続できる機構があるとのこと。

また、品質安定化の機能として、センシングユニットのご説明がありました。印刷時にマークやカラーパッチを読み取り、印刷位置や色のずれを補正しながら出力することで、色のばらつきを抑える仕組みです。さらに、除電ユニットについてもご紹介いただきました。静電気で紙が貼り付くことを抑え、後工程で扱いやすい状態にする機能だそうです。薄紙のノンカーボン伝票を連続出力するデモを見せていただきました。

展示ブースでは、さらに、カード印刷などの顧客事例及び各種インク方式のデジタル印刷機についても紹介されていました。



# 富士フイルムグラフィックソリューションズ株式会社



富士フイルムグラフィックソリューションズでは、デジタルプレス機「Revoria Press PC2120S」についてご説明をいただきました。FFGSは「デジタルプレスの活用でワクワクする未来を」をテーマに、デジタルプレス機やワークフロー、カラーマネジメント関連のソリューションをご紹介されていました。

まず、機種名の「Revoria Press PC2120S」が、A4で1分間に120ページの出力速度であることが紹介されました。この機械は6色をワンパスで印刷できることが特徴。CMYKの4色に加え、特色を2色搭載できる構成で、今回の機種から新たに蛍光グリーントナーが搭載されたようです。従来からの蛍光ピンクと組み合わせることで、RGBデータに近い、鮮やかな色再現が可能になるとのこと。

また、用紙設定を自動化する機能についても紹介されました。用紙プロファイラーに紙を差し込むと、紙の種類、色、コートの有無、厚み、転写電圧などを測定し、推奨設定を提示する仕組みです。また、凹凸のある紙を使った実演も行われ、手動設定に比べて作業時間を短縮できることが紹介されました。

そのほか、ユーザー事例のサンプル、蛍光ピンクや蛍光グリーンを使ったアパレルブランド想定サンプル、ワークフロー関連サービス、モニター表示と印刷物のRGB再現を比較する展示についてもご紹介されていました。





# 株式会社小森コーポレーション



小森コーポレーションでは、オフセット枚葉印刷機を中心に培ってきた技術と、新たなデジタル印刷機についてご説明をいただきました。

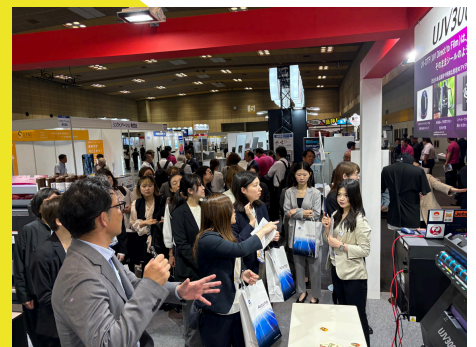
まず、KOMORIがオフセット枚葉印刷機を開発・製造・販売していること、その技術をもとに新たなデジタル印刷機「J-throne 29」を発表し、今年2月から販売を開始したことが紹介されました。

J-throne 29の特徴は、片面で毎時6,000枚、両面印刷で毎時3,000枚という印刷速度。版替えや洗浄作業がないため、ジョブ間の切り替えの早さもJ-throne29の大きな特長です。

また、両面ワンパス印刷も可能で、オフセット印刷機と同様、爪一爪による搬送で表裏見当精度も良いと、実際のサンプルを交えて紹介されました。

後加工適性においては、オフセット印刷で使われる水性ニスやUVニスにも対応できることが紹介されました。ブースでは、オフセット印刷機で印刷したサンプルや、資材関係のサンプルについてもご案内をいただきました。

# 株式会社ミマキエンジニアリング



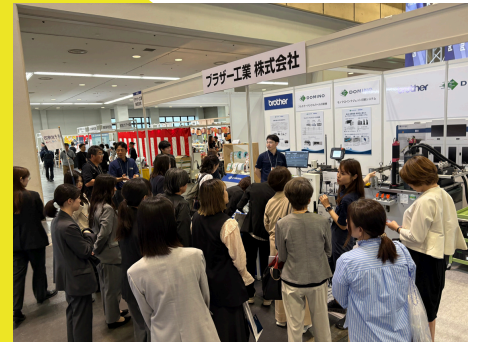
ミマキエンジニアリングのブースでは、「印刷業界の次の一手」をテーマに、Tシャツやグッズへの加飾提案、そしてサイン・ディスプレイ分野への展開について紹介が行われました。

印刷会社がチラシなどを制作した後、これまで外注することが多かったサイン制作や大型出力を、自社内に取り込めるような機械として、フィルム印刷と板物印刷の両方に対応できるプリンタが紹介されました。1台でフィルム系素材とボード系素材の双方に対応できることが特徴で、等身大パネルなどの大型出力にも対応できるとのこと。

また、グッズ制作やアパレル向け加飾についてもご紹介があり、実際にブースではオリジナルTシャツやサンプルグッズが展示されていました。印刷会社が新たな事業領域へ広げていくためのヒントが多く紹介されていたと思います。

今回のご訪問の際に、印刷女子オリジナルシャツをプレゼントいただきました。印刷女子ツアー記念の素敵なプレゼント！ありがとうございました！

# ブラザー工業株式会社



ブラザー工業の展示ブースでは、産業用インクジェット印刷システムについてのご説明をいただきました。ブラザーが2015年にドミノを買収し、現在はブラザーとドミノが共同で製品開発を行い、世界で販売しています。

フルカラーでは、パッケージ系ラベル向けのインクジェット印刷機を扱っていること。また、モノクロではプリントヘッド単体を搬送機に搭載し、宛名やラベルなどの可変印字に使えることをご紹介いただきました。

また、実機を使ったモノクロ印字のデモも行われました。シート搬送機や輪転機と組み合わせることで、さまざまな印刷物に可変情報を印字できるようです。

ペットボトルの賞味期限印字のような産業用途にも対応しており、インクジェットからマーカーまで幅広く展開していること。

さらに、Tシャツプリンターや缶バッジなど、グッズ向けの展示についてもご紹介いただきました。

皆さま、ありがとうございました！

# 京セラドキュメントソリューションズジャパン株式会社



京セラドキュメントソリューションズの展示ブースでは、水性インクジェット方式のプロダクションプリンター「TASKalfa Pro 55000c」についてご説明をいただきました。

まず、出展テーマが「さらに進化、水性インクジェットで実現する印刷改革」と紹介されました。ブースには、TASKalfa Pro 55000cの実寸サイズの機体イメージが掲示されていました。

先行機であるTASKalfa Pro 15000cが、インクジェット対応プロダクションプリンターという新たな選択肢を市場に提示したことが紹介されました。そして、TASKalfa Pro 55000cは、その領域をより高画質・高生産の分野へ広げる位置づけの製品であるとのことでした。

グラフィカル用途を含む、より高い印刷品質が求められる印刷物への対応力を高めており、1,200dpiのインクジェットヘッドと可変ドロップサイズ技術により、滑らかな階調表現と高精細な印刷を特徴とする機種のようなようです。また、従来の水性インクジェットでは対応が難しかったコート紙やマット紙への印刷にも対応し、カタログ、パンフレット、雑誌、ポスター、DM、絵本など、これまでオフセット印刷が担ってきた領域へも展開が可能とのことでした。

生産性の面では、A4換算で月間最大500万ページの印刷に対応し、独自の年間保守方式と高耐久設計により、印刷ロット拡大時のコスト競争力を確保。資材価格が高騰する中、オフセット印刷からのジョブ置き換えや、生産工程の見直しを検討されているお客様にとって、現実的な選択肢となる一台です。

当日は、TASKalfa Pro 55000cで出力した印刷サンプルと、先行機TASKalfa Pro 15000cのサンプルが展示されていました。また、水性インクジェットの乾燥工程についても触れられ、低温で乾燥するため、後加工機へ運びやすい波うちの少ない印刷物に仕上がることが紹介されました。

# 株式会社メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン



メッセ・デュッセルドルフ・ジャパンの展示ブースでは、国際印刷・メディア産業展「drupa」について説明が行われました。

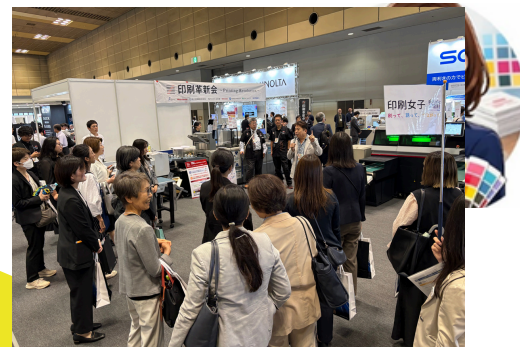
メッセ・デュッセルドルフ・ジャパン(MDJ)が、ドイツのMesse Düsseldorf GmbHを親会社とする日本法人であることが紹介されました。MDJは、主にデュッセルドルフの見本市会場で開催される各種産業向け展示会について、日本からの出展や来場を支援しています。

drupaは、印刷技術分野の国際見本市です。1951年に初開催され、75年の歴史を持つ展示会であること、毎年ではなく4～5年ごとに開催されることが説明されました。前回のdrupa 2024は、世界49カ国から1,614社が出展し、173カ国から16万5,000人超が来場したようです。drupaはインテックス大阪の3倍以上の規模の会場を使って開催されることも紹介されました。次回は2028年5月9日から17日まで、9日間の日程で開催される予定です。

また、前回のdrupa 2024でGirls Who Print活動を知ったことが、日本での印刷女子活動を始めるきっかけになったことが共有されました。来年のIGAS、その先のdrupaに向けて、海外のネットワークとつながっていきたいですね！



# 印刷革新会



印刷革新会ブースでは、「Printing Revolution」をテーマに、印刷会社とメーカーが連携したDX・自動化ソリューションの展示が行われました。

まず、印刷革新会が2022年にスタートした取り組みであることが紹介されました。参加企業は、佐川印刷、正文舎、クイックスの印刷会社3社に加え、コニカミノルタ、リコー、ホリゾン、SCREENなど複数メーカー。

展示ブースでは、「メーカー単独ではなく、複数メーカーの機器をどう連携させて運用するか」を実機で見せることが重視されていました。印刷業界の縮小によって、メーカーの営業拠点や技術サポート体制も縮小している現状が語られ、その中で、印刷会社自身が運用ノウハウを共有しながら、業界全体で生産性向上を進めていく必要性が強調されていました。

展示では、MIS(経営情報システム)とJDFを活用した自動化ラインのデモンストレーションが行われました。印刷するPDFはSCREENのEQUIOSでデータ処理を施し、コニカミノルタの印刷機から出力された印刷物を、ロボットアームや搬送システムでホリゾンの後加工機へ自動搬送し、断裁・製本まで連携させる構成が紹介されました。また、リコーのPOD機と圧着加工機を組み合わせたDM自動生産ラインも展示されていました。

印象的だったのは、検査工程に関する説明でした。WebTech社の検査装置を活用し、OCRではなく「デジタルデータと画像データの照合」によって、文字情報を含めた検査を行う仕組みが紹介されました。「100%文字間違いがない状態を目指す」ことや、医療・個人情報など高いデータセキュリティが求められる分野への展開可能性についても語られていました。

また、単なる省人化ではなく、「生産性向上によって人がよりクリエイティブな仕事へ時間を使えるようにする」ことも、印刷革新会の重要な考え方として共有されました。印刷会社3社が、自社で培ったノウハウを無償で公開しながら、メーカーとともに新しい印刷業界の仕組みづくりを進めているようです。

# 一般社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)



印刷女子ツアーの最後には、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA)のブースを訪問し、「Digital Printマーク」についてご説明いただきました。

「Digital Printマーク」は、商用デジタル印刷が持つ環境価値を“見える化”するための新しい環境ラベルとしてJBMIAが創設した取り組みです。

刷版レスによる資材削減、準備段階で使用する紙、所謂損紙の削減、オンデマンド生産、適正部数印刷による余剰在庫削減、廃棄抑制など、デジタル印刷ならではの長を環境価値として伝えることを目的としているとのこと。

「環境対応はコストではなく、新しい受注や提案につながる価値になる」という考え方で、ブランドオーナーや企業側でも環境配慮への関心が高まる中、印刷会社にとって新しい提案材料になる可能性があります。

会場では、キャノン、コニカミノルタ、富士フイルムビジネスイノベーション、リコーの4社によるパネルディスカッション「環境で選ばれる印刷へ ~Digital Printマークが創る新しい価値~」も行われていました。参加者からは、「環境価値をどう伝えるか」「印刷会社としてどのように活用できるか」といった点について、単なる環境配慮ではなく、営業提案や差別化につながるテーマとして関心を集めていました。



# Girls Who Print Japan ご紹介

印刷女子／Girls Who Print Japanは、世代や職種を越えてつながり、出会い・学び・共感を育むコミュニティです。安心して話せる場で経験や気づきを共有しながら、印刷業界の魅力発信や次世代リーダーの育成、そして持続可能な未来づくりに貢献することを目指しています。

印GWPJ事務局の永嶋さんが、これまでのイベント運営の経験をもとに、「印刷女子って何？」のご紹介を作成してくれました。活動の目的・価値・広がりを短時間で伝えられる内容になっています。

## Girls Who Print Japan：「印刷女子」ミッション・ビジョンと価値創造モデル

### ミッション

- 出会い・学び・共感を通じて、印刷業界で働く女性たちが互いに力を高め合い、次世代のリーダーを育む支援的なコミュニティを築きます。

### ビジョン

- 印刷業界の魅力に社会に発信し、多様なステークホルダーと連携しながら持続可能な業界の未来を創造します。
- 誰もがリーダーシップを発揮し続けられる環境を整え、若い世代も憧れ、業界へと進化させていきます。

世代や職種を越えてつながり、学び合い、支え合うコミュニティを育む。

- 世代や職種を越えたネットワークづくり
- 安心して語り合えるコミュニティの形成
- 仲間が存在を感じられる場の提供

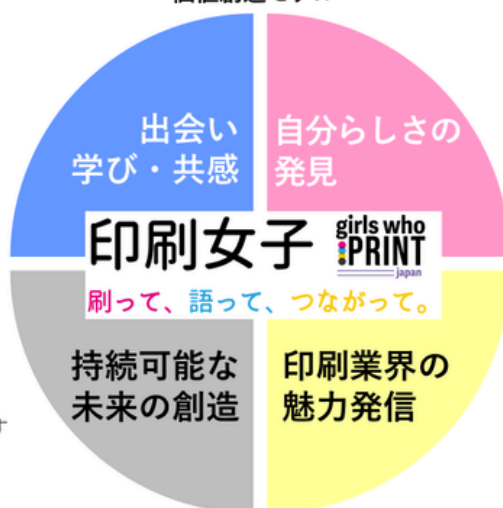
つながる      学ぶ      分かち合う

多様な連携で、誰もが活躍できる、変化に強い業界の未来を共に創る。

- 多様なステークホルダーとの連携・共創
- 国際的な視点を取り入れ、変化に強い業界へ進化
- 誰もが活躍できる、次世代に誇れる印刷業界を目指す

共創する      つなぐ      進化させる

### 価値創造モデル



価値観や強みに気づき、自分らしいキャリアとリーダーシップを描く。

- 自分の価値観や強みを認識し言語化するワーク
- ロールモデルとの対話によるキャリアの気づき
- 自分らしいリーダーシップのスタイルを探る

気づく      描く      選ぶ

女性の声で印刷の価値と楽しさを伝え、次世代に興味と希望を届ける。

- 印刷の価値と楽しさを、業界内外に向けて発信
- 若い世代や女性に「印刷って面白そう」と思わせるきっかけをつくる
- 活躍する女性たちの声を通じて業界の可能性を

伝える      惹きつける      広げる

## ヒストリー

